

先生は地元企業社員

地域の方で中学生の職業観や勤労観を育てようと横須賀商工会議所、横須賀市、同市教育委員会が連携して実施している「よこすかキャリア教育推進事業」が着実に広がりを見せている。なかでも地元の協力企業が学校に社員を「先生」として派遣するマイタウンテラーチャーター(MTT)制度は教育現場、企業双方に効果をもたらしている。

(中島 弘孝)

よこすかキャリア教育推進事業



熱く幅広く交流

13日夜、初の「MTT交流会」が横須賀商議所で開かれた。「よこすかで働く大人はみんな子どもたちの先生」と書かれた横断幕が掲げられた会場で、MTT経験者や派遣元の事業所、キャリア教育事業推進校の教職員ら約130人が参加

し、熱く幅広く意見や情報を交換した。

将来、横須賀で産業人として活躍する人材を育てる目的で産官学連携による事業がスタートしたのが2008年4月。現在、賛同する「キャリア教育応援団」は326企業・団体に増えた。また、事業推進校は当初の2校から9校になり、今後さらに増加する見通しという。

職業観を刺激

MTTを交えたグループ討議や研修会、職場体験などのプログラムは、労働に対する関心や意欲を高め、職業観を刺激する成果を挙げている。推進校はそれぞれテーマを決め、MTTからの支援を受けながら「中学生、自分再発見、プロジェクト」に取り組んでいる。

地域力で支援

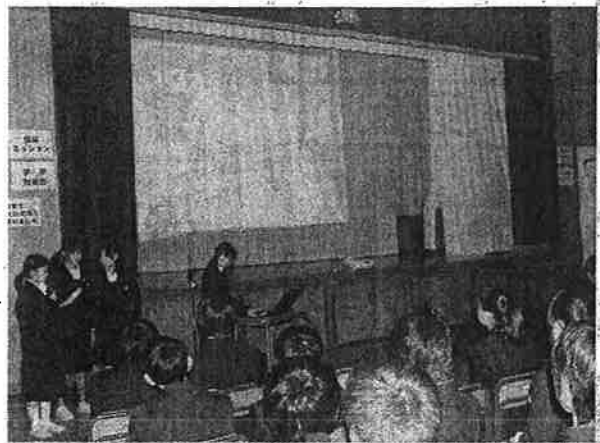
猿島航路の運航会社トラ

インクル(同市小川町)からMTTの派遣を受け、猿島の観光客増加をテーマに同プロジェクトに取り組

む。労働力の市外流出による地域活力低下に対する危機感を背景に始まった横須賀の取り組みは今後、教育雑

誌などでも紹介される予定

将来の産業人を育てる



猿島活性化へ真剣な提案が相次いだ猿島ミツシヨンの発表会。横須賀市立馬堀中学校

の目的を通じて大人と触れあうことで受ける緊張感が大事。教師の社会性も育つ」と高く評価する。

一方、MTTは経験した側の財産にもなる。交流会であいさつに立った損害保険会社の女性社員は「なぜ働くのか、なぜこの会社に入ったのかをあらためて考える機会になるなど、勉強になることがたくさんあった」と話した。中学生の柔軟な発想から企画のヒントを得ていると話す企業幹部もいる。

映画を見せながら地産地消の料理の提供、ウォークラリーをはじめとしたイベント、新しい猿島土産など、アイデアが次々と飛び出した。会場にはMTTに加え、保護者や地元自治会・町内会役員らも集まり、地域ぐるみでキャリア教育を支える光景が見られた。

参加者が熱く幅広く情報交換したMTT交流会

